



令和5年3月10日

茅ヶ崎中学校だより 3月号

横浜市立茅ヶ崎中学校 校長 高山 俊哉

TEL. 941-0601 / FAX. 942-9216

E-mail : ky-j-chigasaki@city.yokohama.jp

学校HP: <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/chigasaki/>

「はなむけの言葉」

校長 高山 俊哉

卒業生の皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。

コロナ禍のために、卒業式は、もう何年も卒業生の皆さんと、私たち職員だけで行ってきました。しかし、今年は、いまだ制限はあるものの、保護者の皆様にご列席いただき、また、ご来賓として勝田茅ヶ崎連合町内会長・吉野様、本校PTA会長・高橋様をお迎えし、本日の式を行えることを本当にうれしく思っております。本日は、誠にありがとうございます。

さて、卒業生の皆さん、本日をもって9年間にわたった義務教育が終了します。この9年間に振り返って・・・その中でも特に中学校の3年間に振り返って、今、どのような思いをもっているのでしょうか。

小学校を間もなく卒業し、新たな中学校生活が始まろうとした矢先に、コロナウイルスが世界を襲いました。皆さんの学年は、小学校6年生の3月に突然の休校となり、卒業式も満足に行えませんでした。続く中学校の入学式も、式のみ行われ、翌日からは再びの休校。やっと再開した6月からも分散登校。クラス全員が再び顔をそろえたのは、何と6月のなかば過ぎの、もう暑くなり始めた頃でした。その後、やっと部活動が始まり、7月9日までの茅ヶ崎中史上、最も遅い仮入部期間を経験することになります。

茅ヶ崎中学校だけではありませんでしたが、今思うと壮絶な中学校生活のスタートでした。その後も制限ばかりの学校生活を送り、今年度に入って、やっと今までのものに近い学校生活を送れるようになりましたが、結果としては、中学校生活の、ほぼすべての期間に渡り、感染症の影響を受けた唯一の学年ということになります。

ですが、実は皆さんの入学当時のことを思い出すのに、ずいぶん時間がかかりました。なぜならば、今の皆さんの表情にそういった苦労の影が全然見られないからです。大きな制限に不満を言うのではなく、どのように工夫したら前に進んでいけるかを、学校生活のすべてを通して努力し実践してくれました。笑顔あふれる学年でした。「怠るもの不満を語り、努力するもの夢を語る」私の好きな言葉ですが、まさに工夫と努力で前を向き、3年間を乗り切ってきました。

先ほど、「今年度に入りやっと今までに近い学校生活が送れるようになってきた」と簡単に言ってしまいましたが、これも皆さんにとっては大変なことでした。中学校生活はたった3年間ですから、2年中止が続くと、もうそこにはその行事などを経験した人がいなくなってしまうということになります。体育祭こそ学年開催で続けていましたが、修学旅行も、合唱コンクールも、ふれあい祭も皆さんの中に何のデータもないままの復活でした。

そんな中でも周囲からは「最高学年だから頑張っ」て」というようなことを言われ続けてきたのだと思います。「そんなこと言われても一度も見たことないし、お手本もない。」と思ったことでしょう。

このような状況でも皆さんは仲間との信頼の力でこの難題を乗り越えてきました。一例をあげれば、昨年10月、3年ぶりの合唱祭が開催されました。ただし、合唱の常識では考えられない「マスクをして隣との距離たて横2m間隔。」の制限付きです。これではもう周囲の人の声は聞こえないはずで、本番で、クラスの皆が、いつも通りに声を出してくれるはずだという信頼がなかったら、とても声など出せない状況です。ですが実際には、皆さんは3年前の3年生と全く同じかそれ以上の声を音楽堂に響かせました。同じ境遇の中で過ごした友との信頼こそがそれを実現させたのではないかと考えます。

これまで皆さんには、つながりが切れてしまった茅ヶ崎中学校でもう一度新しい歴史を創ってほしい。とお話をしてきました。そして、みなさんはそれを立派にやりとげたと思っています。結局全校揃っての大きな行事は開催することが叶いませんでしたが、皆さんは、校歌に歌われている「夢・愛・平和」を後輩たちに伝え、新しい歴史を創ってくれたと感じています。本当にありがとうございます。

私事ですが、今年の6月に父が亡くなりました。父は引退するまで、東京の目黒にある小さなメッキ工場に働いていました。メッキというのはそのままではサビてしまう金属の上にサビない金属の膜をつけてピカピカにしておくという技術です。ふだんはあまり意識することのないメッキですが、私が中学生の時、技術の授業で作った出来の悪い文鎮に、父がこっそり高価な金メッキを工場ですべて磨いて、まるで金の延べ棒のようになって戻ってきたときは本当にびっくりしました。

そんな父が生前よく私たち子どもに話してくれたこと、まさにその通りだなと今でも思いますので皆さんにもご紹介したいと思っています。

「メッキってというのはな、どんなにピカピカできれいにしても、しょせん薄っぺらな膜なんだよ。ぶつかったりこすれたり、風雨にさらされちゃうと、結局、はがれちゃうんだよな。それでも光り続けたいなら、地金、つまり中身を磨くしかないんだよね。でも中身はいつ磨いていないとサビちゃう。人間も同じじゃないかねえ。着飾っても格好つけても、口先ばかりのことを言っても、それはメッキだから、ちょっと何かあるとすぐにはがれ、正体がばれてしまう。大切なのは、中身をさぼらず磨き続けるということなんじゃないのかなえ。」・・・こんな話です。

でも、中身を磨き続けるというのは実際にはどういうことなのでしょう。自分自身も未だに答えは出ていませんが、現状に満足せず、今の自分よりちょっとだけ背伸びをして頑張ってみること。正直に生きているか、口ばかりになっていないか、努力しているか、さぼってないか。こんなことをいつも振り返りながら毎日を過ごすこと、そういうことが大切なのではないかなと思っています。見た目ではない心の地金、そして真の知識をしっかりと磨いていって欲しいと思います。

保護者の皆様、3年生は、中学校生活の3年間、多くを学びつつ立派に成長してきました。引き続き、最も身近での理解者としてどうかよろしく願いいたします。本日はお子様のご卒業、まことにめでとうございます。

さあ、お別れの時間です。皆さんが自らの力でそして笑顔で活躍する未来を信じています。卒業おめでとう！お元気で！

令和5年3月8日 校長 高山俊哉

2/17(金)

2年 平和集会

2年生は、来年度の長崎修学旅行に向けて平和学習をおこなっています。その一環として、修学旅行実行委員9名が代表して「神奈川県戦没者慰霊堂」を訪れ、2年生全員で折った折り鶴を奉納してきました。



2/21(火)

3年 卒業遠足

3年生は進学のための試験が概ね終わると、卒業に向けたプログラム(式練習・テーマ学習・レクリエーションなど)に入っていきます。卒業遠足では、みんなで「東京ディズニーランド」に行ってきました。寒かったけれど、楽しい思い出の1ページになりました。

2/24(金)

10組 お別れ遠足

お別れ遠足で「国立競技場見学ツアー」に行ってきました。スケールの大きさに圧倒されながら、サイン体験や、実際にフィールドを走ることもできました。最後に3年生と最高の思い出がまたひとつ増えました！！



2/27(月)

3年 地域清掃

校外委員さんのご協力をいただきながら、3年生全員で地域のゴミ拾いをおこないました。実際に清掃をしてみると、あらためてゴミが少なく清潔な街であると実感しました。地域の方から「本当にありがたく、気持ちがいい。」と、嬉しいお電話をいただきました。

2/27(月)

学・家・地連総会

学校・家庭・地域から約40名の方にご参加いただき、今年度の取り組みの報告をおこないました。コロナ禍で縮小していた活動が、徐々に動き出している感じが感じられました。



3/2(木)

3年生を送る会

避難訓練以外で全校生徒が集まる行事は、コロナ禍以降初めてでした。「全員で3年生に感謝の気持ちを伝えたい」という、生徒会と在校生の思いが伝わってきました。



3/8(水)

令和4年度 第42回 卒業証書授与式

穏やかな小春日和、早咲きの桜に見守られ、295名の卒業生が巣立ちました。
巻頭に、当日話された「学校長はなむけの言葉」を、巻末に「卒業生別れの言葉」を掲載しました。



小林一茶 第22回 全国小中学生俳句大会（信濃町教育委員会・一茶記念館）

特選 雷鳴やあと五センチのまつり縫い 3年 釣谷 珠美

3月の予定

- 3/ 1(水) 1年球技大会
- 3/ 2(木) 生徒朝会～3送会
- 3/ 6(月) 2.3年卒業式予行
- 3/ 8(水) 卒業証書授与式
- 3/10(金) 1.2年キャリア講演会
- 3/13(月)～14(火) 2年 SEPRO
- 3/14(火) 1年キャリア学習
- 3/15(水) 2年球技大会
- 3/16(木) 1年百人一首大会
- 3/17(金) 2年百人一首大会
- 3/22(水) 大掃除
- 3/24(金) 修了式
- ～ 学年末・春季休業 ～

4～5月の主な予定

変更になる可能性がありますので、必ず
4月に配布する予定表をご確認ください。

- 4/ 7(金) 始業式・入学式
- 4/10(月) 離任式
- 4/18(火) 3年全国学力学習状況調査
- 4/21(金) 学校説明会・学級懇談会
- 4/27(木) 横浜市学力学習状況調査
- 5/ 9(火) 1年遠足
- 5/12(金) 授業参観・PTA 総会
- 5/18(火) 2年校外学習
- 5/21(日)～23(火) 3年修学旅行
- 5/24(水) 3年代休
- 5/31(水) 体育祭

別れの言葉

厳しい冬の寒さが和らぎ、春の訪れを感じる今日、私たちは卒業の日を迎えます。

思えば始まりは三年前の春でした。小学校を卒業し、入学に向けて標準服を買ったり、文房具の準備をしたり、心の中は期待でいっぱいでした。しかし、私たちの歯車は休校によって狂わされました。最初こそは休校になってラッキーと思いましたが、日がたつにつれてその感情は薄れていき、いつしか不安でいっぱいになっていました。

六月に入ると休校が解除され、本格的に登校できるようになりました。毎日が新しくとても刺激的でした。そして十月、私たち赤学年にとって最初の学校行事である体育祭がおこなわれました。残念ながら全学年での開催とはならず、学年別の開催でしたが、私たちの一生の思い出に残るような素晴らしいものでした。三月の百人一首大会。みんな必死になって語呂合わせの赤い紙とにらめっこをし、当日は放送に耳を傾け、和気あいあいと札を取り合いました。

二年生になると、一年生が入学して、先輩としての自覚が芽生えました。少し大きかった標準服も着こなせるようになってきました。しかし、新型コロナウイルスの影響によって二年生の夏休み明けは分散登校があり、体育祭もまだ学年別の開催でした。そのような状況でも先生方はあきらめず私たちがよい経験を積めるよう、懸命に決行しようとしてくださいました。その功もあってか、ついに私たちは校外学習へ行くことができました。毎日学校の中で授業を受けていた私たちにとって、それはとても新鮮でした。校外学習で一番印象に残っているのは、ランドマークタワーからの景色です。横浜の町を一望でき、どこまでも続く海は秀麗でした。三月、球技大会が開催されました。私たちにとって二度目の大会は、一年生の時よりも速球があちこちで飛び交うものになり、数々の熱戦が繰り広げられました。

そして三年生。茅ヶ崎中学校の最高学年として委員会や部活動での役割は大きくなり、自分の言動に責任を持つようになりました。九月、私たちにとって記憶に新しい修学旅行が行われました。これは三年間の学習の集大成であり、並々ならぬ思いで臨んでいたと思います。修学旅行で一番思い出に残っていることは何でしょうか。各々あると思いますが、私は語り部さんのお話がとても印象に残りました。なぜなら、とても重要なことに気づかされたからです。それは「経験」の大切さです。私たちは、小学生の頃から歴史の授業や教科書を通して原爆について学んでいました。その上、私たちは、語り部さんのお話直前に原爆資料館を見学していたので、原爆について十分に理解したつもりでいました。しかし、実際には、全く理解できていませんでした。よく犠牲者の数ばかりに焦点がいきがちですが、語り部さんのお話を通して、被爆者に対して根強く差別が残ったということを知り、とても驚きました。また経験から学べることは、他のどんなものよりすぐれているということが分かりました。

思い出を語り始めると話は尽きませんが、このように充実した三年間を送れたのは、様々な経験の場を設け、そこまで導いてくれた先生方や、その挑戦をいつもそばで支えてくれた家族のおかげです。今まで本当にありがとうございました。

結びになりますが、私たちはこれから先、より大きく高い壁に直面していくでしょう。けれども、この茅ヶ崎中学校での経験が私たちの中にあることを忘れずに、そして何より、自分たちを支えてくれる家族や友人がいて、ここに戻れば先生方もいる。乗り越えられない壁はないと思います。それを胸に、私たち一同は卒業し、それぞれの夢に向かって羽ばたいていきます。

令和5年3月8日 卒業生代表 佐々木俊弥